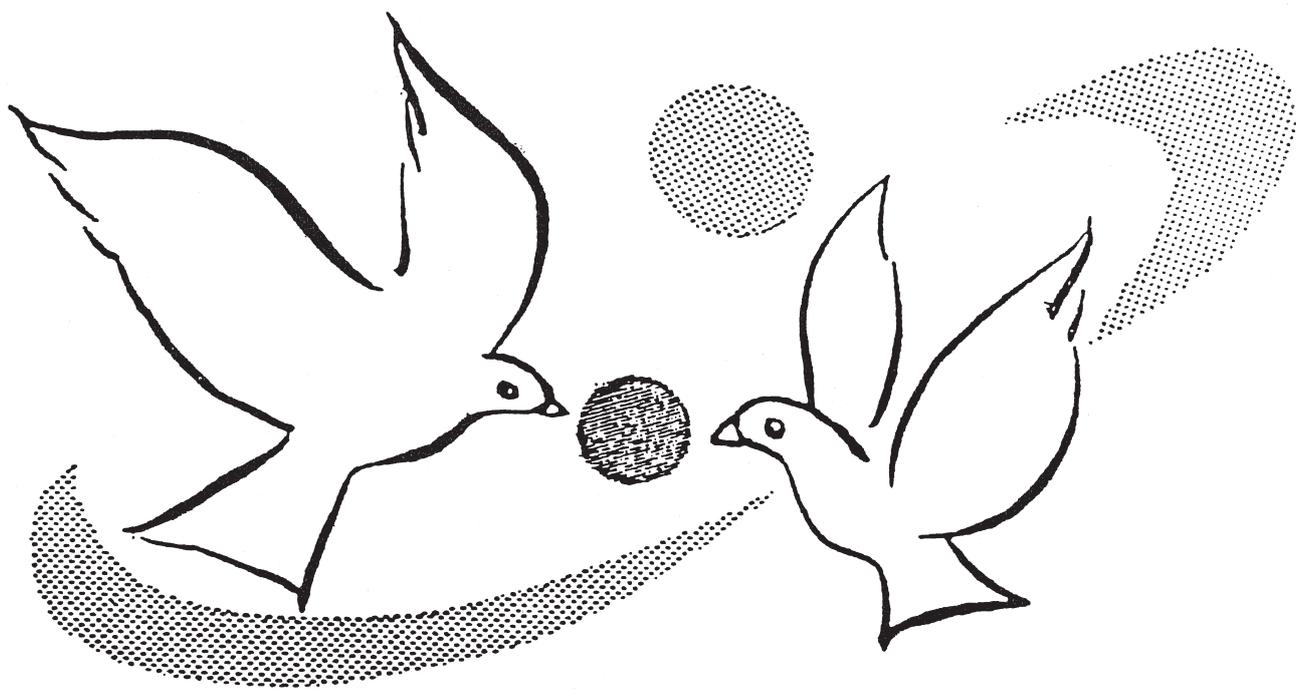


# 広島を訪ねて

平和のための  
小中学生広島派遣団文集



—令和7年度—

(2025年度)

城 陽 市



## 市の木 梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。  
南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。



## 市の花 花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月7日市制施行10周年を記念し制定。  
豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。



## 市の鳥 しらさぎ

平成19年（2007年）11月7日市制施行35周年を記念し制定。  
『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

## 城陽市歌

作詞 龍村 孟雄  
作曲 中原 都男

明るくのびのびと

1. うめかあーる やまべにのべに ちやのみどりほのか にもゆーる もろびとのころのすみか うつくしきわれらのまち よひかりあれ ひかりあれ ひかりあれ じょうよう うつくしまち

2. 松あおき 鴻の巣山に 鳥啼きて 明るき陽ざし こだまする 榎のひびきに ひらけゆく われらのまちよ 栄あれ 栄あれ 栄あれ 城陽 ひらけゆくまち

3. 砂しろき 木津の流れに 黄金なす 稲穂のみのり 山の幸 野の幸さわに ゆたかなる われらのまちよ 恵あれ 恵あれ 恵あれ 城陽 ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）2月15日制定  
（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に伴い、町歌を市歌とした）



## 城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行4周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）4月26日制定

〔昭和47年（1972年）5月3日市制施行に  
伴い町章を市章とした。〕

## 城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを  
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい  
城陽の未来を創造するために  
わたくしたち城陽市民は

- 一、自然を生かし 美しい緑を育てましょう
- 一、教養を深め 豊かな文化をつくりましょう
- 一、心身を鍛え 働く喜びを大切にしましょう
- 一、隣人を愛し ふれあいの輪を広げましょう
- 一、秩序を守り やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（1982年）11月7日制定  
（市制施行10周年を記念し制定）

# 城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言



城陽市役所庁舎 南玄関前

令和7年7月31日(木)

城陽市役所集合

出発【小学6年：25名(男11・女14)中学生：8名(男：2・女6)計33名】



昼食



平和記念資料館



被爆者講話（内藤慎吾氏）



↓  
宿泊施設 到着  
入浴  
夕食



↓  
ミーティング



（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

↓  
消 灯

令和7年8月1日(金)

宿泊施設出発



広島平和記念公園到着

原爆ドーム・爆心地



原爆の子の像



原爆死没者慰霊碑



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



広島風お好み焼き体験（昼食）

広島市出発

城陽市役所

解散式



# 目次

広島に行つて	久世小学校 6年 加地陽乃	1
広島で感じた平和の大切さ	久世小学校 6年 津川侑大	2
広島での体験	久世小学校 6年 西村結衣	3
原爆の怖さ	深谷小学校 6年 木田友磨	3
戦争と平和の日々	深谷小学校 6年 柴田悠太	4
戦争を伝え続ける大切さ	深谷小学校 6年 畠中雅基	6
広島を訪ねて	寺田小学校 6年 樋口千遥	7
戦争と原爆の怖さ	寺田南小学校 6年 梅沢史音	7
広島に行つて	寺田南小学校 6年 釜淵善	8
戦争や原爆の恐ろしさ	寺田南小学校 6年 嵯峨野友梨香	9
小中学生広島派遣団の感想	寺田南小学校 6年 能登路大河	10
広島原爆学習について	寺田南小学校 6年 松井愛	11
広島派遣団に参加して	寺田南小学校 6年 山本大輝	12
広島派遣団に参加して	寺田西小学校 6年 下村奈央	13
80年が過ぎても	寺田西小学校 6年 中西陽愛	14
広島に行つて	今池小学校 6年 新谷妃彩乃	15

たった1発の原爆で

今池 小学校 6年 松本 柚希 16

世界平和

富野 小学校 6年 太田 勘解由 17

広島で実際にあったこと

富野 小学校 6年 小久保 沙紀 17

1945年8月6日の出来事

富野 小学校 6年 辻 權海 18

原爆による被害

富野 小学校 6年 寺田 侑豊 20

広島派遣に行つて感じたこと

富野 小学校 6年 富田 真司 21

広島に行つて感じたこと

富野 小学校 6年 西村 咲智子 22

広島での経験

青谷 小学校 6年 加納 まお 23

原爆の恐ろしさ

青谷 小学校 6年 中野 結菜 23

こわれた平和

西城陽中学校 1年 宇田 心咲 25

いつもどおりをまた迎えるために

西城陽中学校 1年 清澤 ほのか 26

広島を訪れて

東城陽中学校 1年 北之園 奈都 26

広島派遣団に参加して

東城陽中学校 1年 瀧 杏莉 27

広島学習

東城陽中学校 1年 中村 京楓 28

核廃止に向けて

南陽高等学校附属中学校 1年 近藤 勇斗 29

日常を壊されたあの日

城陽中学校 2年 梅沢 笙史 30

戦争のむごさを考えた二日間

南城陽中学校 2年 梅川 史 31

## 広島に行つて

久世小学校 6年 加地陽乃

私が、広島派遣団に参加した理由は、ニュースで見えていた戦争と原爆に興味があり、ちょうどその時に学校で、城陽市から広島に行き、原爆の恐ろしさと平和について考える、広島派遣団のプリントが配られたのがきっかけでした。

広島に到着して、平和記念資料館で音声ガイドと一緒に回る中で、原爆で焼けた同じ年齢ぐらいの子の水筒や、お弁当などの持ち物や洋服を見て、核兵器は、関係のない人たちの日常を消し去り、いつも通りに過ごしていたはずの日を、地獄にかえていくのだと知りました。

また、1日目の被爆者のお話で、原爆の恐ろしさや戦争の恐ろしさが、ニュースで聞くのとはまた違っていて、何の罪もない人の、幸せに暮らしていた日常や、たくさんの命が、たったひとつの核兵器で突然消えてしまい、助かった人たちも、白血病などの病気や、後遺症で苦しんだり、いつ死ぬかわからなくなったりするというお話を聞いて、胸が痛くなりました。そして、「もう、二度と私たちがのようなことが、起こらないでほしい。」という気持ちがあつたのと同じように、さらに、のどが渴いて、川の水を飲もうとした人、飲んだ人がたくさんいたのだとわかり、ほんとうに大変だったのだなと思ひました。

2日目の朝、朝食を食べた後、宿泊施設を出て、原爆ドーム前でバスをおりて、原爆ドームを見に行きました。そして、8月6日に

原爆は上空600mで爆発し、地表温度が3000度から4000度もあつたのに、残つたのがすごいなと思ひました。

原爆ドームを過ぎて、爆心地に行き、爆心地では、約3000度から4000度の熱線を浴び、それと同時に突風が来て、爆心地の近くにいた人々は一瞬にして消えて、その真実が信じられないほど残酷でとても悲しくなりました。そして、改めて、原爆、核兵器は人間が作つてしまつた、とてつもなく危険で無関係な人も殺してしまふものなんだとわかりました。とても悲しくて、殺された人々だけだけでなく、地球の自然も、かわいそうで胸が痛くなり、くやしくてたまりません。

原爆の子の像に折り鶴を捧げ、待つている間に、原爆で死んでいく時の気持ちを考えました。普通、死ぬ時は、一瞬にして消えるわけではなく、少しは考える時間があるはずですが、原爆の場合、考える時間もなく、何も出来ずに一瞬で死んでしまい、自分が死ぬことすらわからず死んでしまふ悲しさもあり、辛かつたのだらうと思ひました。

今回、広島で、原爆、核兵器、戦争の恐ろしさを改めて知り、二度と同じ気持ちになる人がいない世界にしていきたいと思ひました。この気持ちを友達や家族にも伝えていきたいと思ひます。

## 広島で感じた平和の大切さ

久世小学校 6年 津川 侑大

ぼくは七月三十一日から八月一日まで、広島派遣団に参加しました。

広島に行く前は、「戦争」や「原爆」という言葉は知っていても、それがどれほど恐ろしいものなのか、実感がありませんでした。でも、実際に広島を訪れ、さまざまな場所に行ったり、話を聞いたりして、心が大きく動かされました。

まず、平和記念資料館に行きました。資料館の中には、原爆で亡くなった人の写真や、焼けた服、時計などが展示されていました。その一つひとつが、実際に使われていたものだと思うと、胸が苦しくなりました。

特に、子どもが使っていたものを見ると、自分と同じくらいの年の子が亡くなったんだと思って、何も悪いことをしてないのに、爆弾で殺されて、かわいそうだと思います。

被爆者の方のお話も聞きました。その方は、原爆が落ちたけれども、カニが防空壕に誘導してくれて助かったそうです。そういう話を聞いて、ぼくは、「その方が生きていることは奇跡なんだ」と思いました。体にも心にも傷を負って、それでも今まで生きてこられたことは、本当にすごいことだと思います。ぼくなら、そんな体験をしたら、きっと毎日がこわくてたまらないと思います。

次の日に、原爆ドームにも行きました。ドームのまわりには、砕けた石が地面に落ちていました。その石を見て、ぼくは原爆の破壊

力がどれほどこわいものだったかを感じました。建物があんなふう

に壊れてしまうなんて、信じられませんでした。もし自分がその場にいたらと思うと、ぞっとしました。

その後、原爆の子の像に千羽鶴を捧げました。一人五十羽ずつ折った鶴を束ねて、像に捧げました。像のまわりには、たくさん色とりどりの折り鶴が飾られていて、まるで花のようでした。でも、それを見たとき、ぼくの心は痛くなりました。こんなに多くの鶴があるということは、それだけ多くの人が平和を願っているということ、そして、それだけ多くの悲しい出来事があったということなのだと思いました。

像に鶴を捧げた後、原爆死没者慰霊碑に花を捧げました。慰霊碑のまわりには、たくさんの花がありました。その花を見て、ぼくはまた心が痛くなりました。花はきれいだけど、それが誰かの命を思って捧げられたものだと思うと、悲しい気持ちになりました。

広島での体験を通して、ぼくは「平和の大切さ」を心から感じました。戦争は、たくさんの方の命をうばい、心を傷つけます。原爆は、一瞬で町をこわし、人々の未来をうばいました。そんなことが二度と起こらないように、ぼくはこれからも平和について考え続けたいです。



## 広島での体験

久世小学校 6年 西村 結衣

私が今回広島派遣団に参加した理由は二つあります。一つ目は、友達に誘われたからです。二つ目は、母に勧められ、少し興味を持つたからです。

一日目、最初に広島についたとき、ここに原子爆弾が落とされたという実感が湧かないくらい、復興していてびっくりしました。でも、バスの中から原爆ドームを見た瞬間にその時の光景が目には浮かんで、少し「ぞっ」としました。

平和記念資料館へ行って、破れた服や灰になったお弁当など、衝撃的なものがたくさんあったけど、その中でも八時十五分に止まった時計が一番印象的でした。なぜなら、八時十五分に爆発して八時十五分に時計が止まったので、本当に一瞬で逝ってしまったことが改めて分かったからです。

平和記念資料館の後、被爆体験者からのお話を聞いて、戦争について、最初は、怖いなだなど思っていたけど、お話を聞いたら、思っていたよりも残酷で、尊い命が一秒もかからずに尽きるということに恐ろしくなりました。

お話が終わった後、お宿に行つて、楽しい時間を過ごさせてもらいました。

二日目は、朝から原爆ドームを間近で見に行きました。原爆ドームを遠目で見た時よりも、当時の様子のはっきり伝わってくるように、壁は崩れていました。その時「どうして昔は戦争をやってもい

いと思っていたのだろう」と思いました。

その次に、平和記念公園へ行つて原爆の子の像に折り鶴をささげました。その後、平和を願いながら慰霊碑に花をささげました。

そして、追悼平和祈念館では、資料や被爆者の動画を見て詳しく学ぶことができました。

最後の広島風お好み焼き体験では、いつもと違うお好み焼きを作る体験ができて、とても楽しかったです。

私は、この二日間を過ごす前と比べて、過ごす前は、戦争や平和については、何となく知っている感じでした。けれど、この二日間を過ごした後は、戦争とは、尊い命を無駄にしたり、日々の生活を破壊したりする恐ろしいことだということが改めて分かりました。

そして、平和は、どこの国同士も協力し合つて暴力で解決しないことや、差別をしないことが平和だと思いました。今ある当たり前の平和は、当たり前ではなく、昔の戦争の経験があつてこそ、作り出された平和だと思います。

## 原爆の怖さ

深谷小学校 6年 木田 友磨

僕が広島派遣団に参加した理由は、歴史が好きで戦争や原爆に興味をもったからです。

まず平和記念資料館に行き、大きな衝撃を受けました。被爆した人は皮膚がずれ落ちたり、ケロイドができていたりして人の形をとどめ

ていませんでした。そして原爆が落ちる時のイメージ映像で、広島  
の街が一瞬で崩れるのを見て、原爆って本当に恐ろしい兵器だと思  
いました。次に被爆者の方のお話を聞きました。その方は、防空壕  
の前で力二をつかまえようとして被爆しました。幸い防空壕に吹き  
飛ばされて助かりました。でもお父さんは熱線をじかに浴び、体が  
黒焦げになりました。弟妹は、がれきに埋もれてなくなってしまう  
ました。それで離れたところにある飛行場に避難したけど、夜にお  
父さんが東の方を向いて「天皇陛下ばんざい。」と言って亡くなり  
ました。被爆した人の話から、戦争って体だけでなく、人の心もむ  
しばんでいくんだと思いました。

二日目は原爆ドームに行きました。この建物は、レンガの壁が崩  
れていたりと、鉄骨がむき出しになったりして、こんなに大きい建物  
でも原爆は一瞬で大部分が破壊されるんだと思って、原爆の恐ろし  
さを再認識しました。原爆の子の像では、折り鶴が数えきれなく  
らいあったので、これだけの人が原爆について知ってくれたんだな  
と思いました。中には折り鶴で作った絵がありました。とてもたく  
さんの鶴でできてすごいなと思いました。次に原爆死没者慰霊  
碑では、菊の花を捧げました。石室の正面には、「安らかに眠って  
下さい。過ちは繰返しませぬから。」と刻み込まれていました。追  
悼平和祈念館では、原爆が落とされたときの街のパノラマ写真や原  
爆が落とされた時の様子が書いてあり、当時のことがよくわかりま  
した。さらに進むと原爆で亡くなった人の遺影がありました。そこ  
には赤ちゃんの写真もあり、こんな小さい子でも命を奪われて心が  
痛みました。

昼は、サンフーズというところに行って、広島風お好み焼き作り

をしました。まず最初はめんを炒めて、お好み焼きの形にしていき  
ました。中でも一番難しかったのが、具材をのせてひっくり返す  
ころです。

この二日間を通して、原爆の恐ろしさを知り、一瞬にしてたくさ  
んの人の命が奪われたことがわかりました。それで、今自分ができ  
ることは、原爆の恐ろしさを後世に伝えることだと思えます。その  
一歩として、家族にこの二日間を学んだことを伝えました。家族は  
興味深く聞いてくれました。今まで学んだことを家族だけでなく、  
周りの友達にも伝えていきたいと思えます。

## 戦争と平和の日々

深谷小学校 6年 柴田 悠太

なぜぼくが、広島派遣団に参加したかというと、以前に友達のお  
兄ちゃんが参加して勉強になったことを聞いて、その友達も今年に  
参加すると言っていたので、ぼくも行きたいと思って参加しました。  
この時は、戦争のざんくさや悲惨さを知りませんでした。

平和記念資料館に行き、展示室で、原爆のせいであんなことにな  
っていたんだと気づき、ゾツとしました。例えば、黒くなったお弁  
当、ポロポロになった服などがあり、それを見ながら音声ガイドを  
聞いていると、原爆の後遺症で歯ぐきから血が出てきたり、発熱や  
嘔吐、下痢などを発症させて被爆者たちを苦しめて、14万人が亡く  
なつたと聞いて、胸が痛く、しめつけるように苦しかったです。「何

でこんな、ざんこくなことをしたのだろう。」と疑問に思いました。もうこれ以上戦争を起こさないように祈ります。そして、戦争はいけないことだとわかりました。

そのあと被爆者講話の時間になり、資料館でも、十分戦争と核兵器の怖さが伝わったけれど、どんな話が聞けるのだろうか、気になりました。

講話してくださった人は、6歳の時に被爆されました。その時の話によると、被爆する前に弟と妹と遊んでいたけど、弟とおもちゃの取り合いになって、お母さんにおこられて、外に遊びに防空壕の近くに行き、その近くに弁慶蟹がいて、防空壕のなかに弁慶蟹が入っていき、それを追いかけて、防空壕の中で止まって、捕まえようとした時に原爆が爆破したけど、防空壕の中にいたから、大火傷はなくて、すごい偶然で助かったんだと言っていました。

講話の人以外は家族全員が火傷して、最初に会ったのは、お父さんでした。しかし、お父さんは真っ黒こげになっていました。見た目はわからなかったそうですが、声でわかったそうです。その後に、お母さんを見つめました。お母さんは家に生き埋めになった弟と妹を助けようと必死で、10分後に弟と妹を助け出しました。その時は、息をされていて、その後、救護室にいきました。しかし、たかさんの被爆者がいました。並び続けている間に、息を引き取ってしまいました。その後、お父さんが倒れて、眠り続け、被爆して5日後に、亡くなる直前に起き上がり、大きな声で「天皇陛下バンザイ」と言って亡くなりました。その後お父さんと弟と妹を焼いて、骨を持って帰りました。そして、帰りに、講話の人の一つ上の兄と再会して、10分ほど抱き合ったそうです。しかし、兄は発熱に襲われ、

亡くなりました。その後、お母さんが、さらにもう一つ上の兄の遺骨を持って帰り、被爆してから7年後にお母さんが死んでしまいました。とつても悲しかったとおっしゃっていました。

もし僕だったら、家族を失ったら絶望のどん底に落ちています。そして、たった一つの爆弾で街が消し飛んだ写真を見たり、話を聞いていると、思わず、目や耳を疑いたくなるようなことの連続でした。講話が終わわり、旅館に着くまでの間、ずっと、「戦争はいったい何の意味があるのだろうか。そして、たった一つの爆弾でこんなことが起きるのか。」と胸がモヤモヤしました。

二日目に原爆ドームに行きました。その当時の時の状態でポロポロになって砕け散ったレンガや、曲がった鉄などがあり、これほど恐ろしいとは思っていませんでした。

その後に爆心地に行き、そこが爆心地とは思えないほど美しく、けれど、昔は焼け野原だったと思うと胸が痛くなりました。

その後、原爆の子の像に向かい、束ねた折り鶴を引っ掛けた時と、原爆死没者慰霊碑に行き、一本キクの花を捧げた時に、僕はこう誓いました。「もうぼくたちは、意味がない戦争をしません。だから、安心して、天国に行ってください。」

この二日間の経験を活かして、この原爆の話、そして戦争の話を未来に残るように、もう二度と戦争という悲惨なことを繰り返さないように、語り続けたいです。

## 戦争を伝え続ける大切さ

深谷小学校 6年 畠中雅基

ぼくは、この夏、城陽市の広島派遣団に参加しました。戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを知るためです。教科書やテレビで見た場所実際に行ってみたかったからです。ちゃんと自分の目で見た時、何を思うか知りたかったからです。

広島に着いて、昼食をすませた後、ぼく達は平和記念資料館を訪れました。この施設を一言で表すと、当時の様子を写真や実物で知ることが出来る所です。原爆が投下された後の町並や、むらさき色の「死のはんてん」ができた兵隊さん、かみの毛が一本も残らずぬけてしまった姉弟、これらを間近で見たら、恐ろしさよりも、人々の痛みや苦しみを強く感じました。ぼくは、のどに何かがつまつたように言葉がしばらく出ませんでした。

平和記念資料館を後にして向かった先は、被爆体験者さんの待つ部屋でした。お名前は内藤さんです。防空ごうの前で力二をつかまえようと遊んでいたところ、原爆が投下されました。爆風で防空ごうの中にふき飛ばされたものの、かすりきずですんだそうです。いっしゅん辺りが暗くなったと思っただけに明るくなったそうです。その時には、辺り一面焼け野原。内藤さんのお父さんは、重しように。はだがたれ下がり、自分の父親だと気付かないくらい姿が変わってしまったそうです。次々と家族を亡くしていった内藤さんのお話にむねがつまりました。「あまり話したくないけれど伝えなければならぬ出来事だった。」と、おっしゃられた時、なんと、

強い人だろうと、尊けいしました。

二日目に訪れたついでに平和祈念館もぜひ、行ってみたい場所です。内藤さんのような被爆体験者さんの話が聞けます。異なる点は、音声で聞けます。約十〜十五分、自分のタイミングで聞くことができるのが良いと思いました。

ぼくは、派遣団に参加して、改めて戦争はあつてはならないものだと思ひました。今もなお、苦しみと共に生きている人達がいることを知りました。学校の社会科で学んだ「平和主義」日本が平和を保とうとしているわけが、分かったと思います。戦争は、多くの人の命をうばうし、人の心や体に一生きずを残してしまうからだと思ひます。戦争の絶えない国がまだあることをニュースで知りました。戦争なんか、もうだれにもしてほしくありません。

ぼくに今できること。それは限られていると思いますが、内藤さんの言葉にあつた「伝えなくてはならない出来事」であることを忘れずに、周りの人に平和の大切さについて伝えたいと思ひました。



## 広島を訪ねて

寺田小学校 6年 樋口千遥

私が広島派遣団に参加した理由は、チラシを見てなぜか気になったことがきっかけです。多くの人が亡くなった原爆ドームがどうなっているのかを知りたくなりました。

私は広島に行く前に、「原爆が落とされた頃がどんな様子だったのか。」というのを、もう少し知っておきたかったので、『はだしのゲン』のアニメをみました。広島町が壊れたり、人が死んだりした悲しい出来事があったことを知りました。

広島に行つて一番心に残つた場所は、原爆ドームです。なぜなら、原爆ドームの屋根がなかった事で、あの時に吹いた風が普通の風ではなく、とてつもない爆風で、屋根が吹き飛ばされるような風だったことが伝わってきたからです。それにより、多くの人が亡くなったことを実感しました。

次に心に残つた場所は、平和記念資料館です。なぜなら、原爆が落とされた日の前後の事が、一日ずつくわしく書いてあったからです。その中でも、原爆が落ちたあとの「皮下出血」の男性の写真には、「こわい。悲しい。」という思いで心が痛くなりました。

私は、広島へ行く前、「原爆を落とされたという今の広島町は、どんな感じなんだろう。」と思っていました。訪れた広島町は、自分が思っていたよりもきれいな町でした。「復興をがんばったんだな。」と思いました。

私は広島に行つて、「私が今できることは何だろう。」と考えまし

た。悲しいことに、今も戦争は起こっています。広島を訪れた後にテレビで見た「広島平和記念式典」では、私と同じ六年生が次のように述べていました。

「一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。」  
「たとえ一つの声でも、学んだ事実を思いを込めて伝えれば、（平和への）変化をもたらすことができるはず。」

私はこの言葉にとっても共感できたので、これからはこのようなことを大切にしていきたいです。

## 戦争と原爆の怖さ

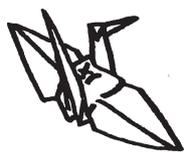
寺田南小学校 6年 梅沢史音

私が今回、広島派遣団に参加した理由は、お父さん、お母さんに、広島県で被爆された方のお話が聞けるのはもうあまりなく、いい体験になるから行つておいでと言われたので参加しました。

まず、広島平和記念資料館に行つてみると色々な画像や音声での説明がありました。それらを見てみると自分が想像していたよりも恐ろしく、とても怖かったです。その中でも怖かったのは、被害にあった人の写真です。着物の紐が皮膚に焼き付いた女性の写真や人影の石等がとても怖かったです。原爆が落ちた事によって、普通に生活していた人の日常が、一瞬にして奪われた事が何よりも印象に残りました。

それ以外にも被害を實際に受けた内藤しんごさんのお話を聞く事で、より戦争について恐ろしく思いました。内藤しんごさんは当時6歳の男の子でした。爆心地から約1.7キロの所で被爆されましたが、防空壕の中にいた為無傷でした。でも、他の家族の人は大けがをしてしまったと言っていました。お父さんは皮膚が焼けただけ、1番上のお兄さんは爆弾により亡くなり、2番目のお兄さんは被爆して24日後に亡くなりました。弟と妹は家に居たので潰れた家屋の下敷きになってしまいました。お母さんは2人を助けに行きましたが、弟妹は亡くなってしまいました。お父さんも数日後に亡くなり、しんごさんはお母さんと2人になってしまいました。お母さんはしんごさんの為に必死に働いてくれてましたが、被爆していたのと働き過ぎの為に亡くなってしまったそうです。その話を聞き、もし私がその時に生まれていたらと思うと、とても怖かったです。戦争や原子爆弾がなければ、いつもの日常を送り、おじいちゃん、おばあちゃんになって過ごしていかけていたのにと考えると、とても悔しく思いました。戦争なんて二度と起きてはいけない事なんだと思いました。

今回の広島派遣団に参加させてもらえて、自分達がどれだけ平和で恵まれた環境にいたのかという事が分かりました。まだまだちゃんと理解出来ない事が多くありますが、友達にも、今回教えてもらった事を話して、戦争や原爆の怖さを話していきたいと思いません。



## 広島に行つて

寺田南小学校 6年 釜淵 善

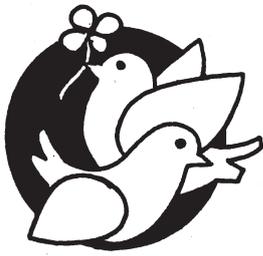
ぼくは今回、友達にさそわれて広島派けん団員になることにしました。それまで核兵器や戦争のことを考えることもありませんでした。広島派けんの説明会の時に講話を聞いて、昔、戦争がおこった時、原爆のせいでした。皆さんの命がうしなわれたことを知り、悲しい気持ちになりました。

一日目は、平和記念資料館に行きました。資料館には、焼けた三輪車やびりびりになっていた服やズボンがありました。なくなった人のなかには、家族との最後の会話が「いつてきます」だった人もいたことを知りました。そのことを知り、自分がでかける時は、自分がしんでしまうことなど、そうぞうもしてなかっただろうし、まだ話したいこともあったと思うと心がいたくなりました。原爆で服や三輪車がこんなに焼けてるのをみて、原爆のおそろしさをしりました。その後の講話では、内藤さんが戦争のことや、原爆のことを話してくれました。その中でいんしょうにのこった所は、お母さんが原爆のひがいの者なのに、ずっと弟や妹を助けていることです。理由は、自分も手や頭をけがしているのに、原爆でがれきの下じきになった弟や妹を助けた内藤さんのお母さんは、かっこいいと思ったからです。戦争がおわり、内藤さんのお母さんも、しんごいの仕事ばかりでつかれているのに、きゆうけいもせずにはたらいっている所が、ぼくならできないので、すごいと思いました。自分だったら、いつもけんかばかりしているのに、内藤さんのお母さんは、家族の

ためなら命をささげる所が感どうしました。

二日目は、いれいひにお花をささげました。いれいひとは、戦争や事故、災害などで亡くなった人や動物のれいをなぐさめるためにたてられたせきひださうです。戦争や事故や災害などが原因で亡くなった人などをなぐさめるためにお花をささげることは、いいなと思いました。

ぼくは広島派けん団員になって、広島に行つて、原爆で服がボロボロになったり、三輪車が焼けたりしているのを見て、今でも昔の戦争がひさんだつたことがわかりました。最後の会話が「いってきます」だった人がいたことに、悲しい気持ちになりました。内藤さんのお母さんの、自分の命より、家族の方が大事という考えが、いとお母さんだなと思いました。いれいひに花をいれる意味をしらずに花をいれていただけ、戦争や事故、災害でなくなった人をなぐさめるものと知りました。昔の人は、戦争を経けんしていて、ぼくも広島に行つて、ざんこくさをしつたので、ずっと忘れないようにします。他国の戦争をいまだ耳にします。戦争をしてもなにもうみません。だからこそ戦争がなくなつてほしいと思ひました。戦争や原爆のこわさをしるきかいをもうけていた、だいてありがとうございます。



## 戦争や原爆の恐ろしさ

寺田南小学校 6年 嵯峨野 友梨香

私が広島派遣団に参加した理由は、母のすすめと、昔に起こつた戦争などについての恐ろしさを知っておきたいと思つたからです。

1日目は、平和記念資料館に行きました。そこには、原爆が落とされた時の様子を再現したホワイトパノラマや、ケロイドという皮ふの病気になるつてしまった人の写真、やけどで、皮ふに着物のあとがついてしまった人の写真、やけどで顔の形が變形してしまつた人の写真、8時15分で止まつているうで時計、ボロボロの服、さびた三輪車などがありました。

私はそれらを見て、いつも通りだつた幸せな日常が、一瞬でこわれてしまうなんて…。と思ひ、こわくなりました。

次に、被爆者の方の講話を聞きました。被爆者の方は、「6歳の時に、父、弟、妹を亡くし、その3日後に、2人の兄を見つけたものの、一番上の兄は骨で見つかり、もう1人の兄は、見つけた時は無事だつたけれど、数日後に「原爆症」で亡くなつてしまひ、母と2人つきりになつてしまつた。けれど、母も過勞と脳出血で亡くなつてしまひ、家族の中で生き残つたのは、自分だけだ。」とおつしやつてしまひました。講話が終つた後、先生に「質問したい人は、質問してくださいね。いい経験になりますよ。」と言われたけれど、たつた一発の原爆で家族とバラバラになつてしまつたり、たくさんの建物が一瞬にしてこわれてしまふという事を知つて、おどろき過ぎたのと、こわさでうまく言葉にすることができませんでした。

その後、宿泊先に移動して、同じ部屋の子と、原爆のことについて話して、夕飯を食べて、お風呂に入って、その日は終わりました。次の日は、慰霊碑を見たり、事前に折っていた鶴を捧げたり、菊の花を捧げたりしました。

その後、お好み焼を自分で作って食べました。量が少し多かったけど、とてもおいしかったです。

この2日間で学んだことを、忘れずにいたいです。貴重な体験がたくさんできました。

この事を周りの人達に教えていきたいと思えます。

## 小中学生広島派遣団の感想

寺田南小学校 6年 能登路 大河

ぼくは、小中学生広島派遣団のみんなと広島に行って、原爆や戦争について勉強して、命の尊さや原爆のおそろしさを、原爆資料館や原爆ドームなどで学びました。

まず、バスの中では、しんじくんという男の子がとなりで、最初は名前や好きな物とか、好きなキャラなどについて話して、だんだん仲よくなっていって、お昼にはもうおたがいに、けいごではなくなっていたことを帰りにきびきました。

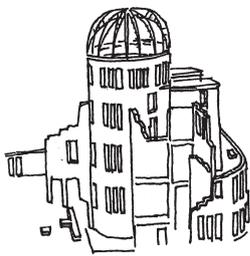
お昼はむすびのむさしに行って、うどんとおにぎりがおいしかったです。そのあと、ほかの人からたべてっていわれたりして楽しかったです。

次は、原爆資料館などに行きました。原爆などを学ぶ前、バスの中で、ぼくはワクワクしていて、とにかく楽しみでした。中に入った時に、左の方に音声ガイドがあり、その機械があれば、場面のせつめいを聞けました。その音声ガイドを使い、被爆者の物などが置かれている横の番号を入力すると、人の声が流れたり、絵や写真が映し出されました。それを見て、より原爆のおそろしさを知りました。

そこからエレベーターを昇った先には、今ではありえないような、建物ががれきの山になり、泣いている一人の少女だったり、大人が5〜6人ががれきを移動させたりと、そうぜつな写真がたくさんありました。がれきがちらばって、こわれた自転車や、やけどだらけの人や放射線で苦しむ青年の写真、皮ふが焼けただれた人の絵や、川にとびこんで死んでいく人を描いたものなどがありました。ほかにも、外かくだけ残っているビルがあったり、倒かいをまぬがれたえんとつや服などもあり、いくら戦争だからといって許されないことです。

次は、被爆者の話を聞きました。話では、被爆者は学校の日に兄と学校に行くはずだったけど、学校はひなんくんれんばかりでおこられるので、学校に行きませんでした。そのあと家のベランダのようなどころに行って、そこに生き物がいて、それについて行きました。防空ごうの前で止まり、生き物をつかまえようとしたら、うしろでドカーアアアンという音とともに、防空ごうの中にふきとばされましたが、幸いけいしようですみました。外にでてみると父はぼろぼろのすがたで、家の近くを見ると母がぼろぼろのじょうたいで、がれきの方を見ると弟と妹が、がれきにはさまり、母がひっし

にたすけだそうとしていました。そのようなすを見て、自分がかたま  
ってしまつて、しばらく動けなくて、ただ見ているだけでした。た  
すけることができるようになると、立ち上がつて父をさがしました。  
そこから数分まつと、家のおくに父のすがたがあり、ついでいくと、  
ひなんじよがありました。歩いて行く人の皮ふはずるむけでした。  
そして、母が弟と妹をかついで歩き出し、母が父のかたに手をおこ  
うとすると、皮ふがずるむけになり、歩いていると、目が見え  
ないと言つたので、母はぼうを父に持たせて、そのぼうを引っぱつ  
て歩きはじめました。ひなんじよで生活して4日後に父が死に、弟  
と妹は8月6日に死んでしまいました。そして数年たったある日、  
母も死んでしまいました。このように、一発の原爆でこんなにも被  
害をだして、聞いていられるほんのほんのほんです。



## 広島原爆学習について

寺田南小学校 6年 松井 愛

私が広島派遣団に参加しようと思つた理由は三つあります。一つ  
目の理由は、五年の時の国語のじゅぎょうでやった『たずねびと』  
という話をよんで広島原爆についてすごく興味をもちました。二つ  
目の理由は、いとこが広島へ原爆学習に行ったことです。いとこは  
校外学習で広島に行き、「こわい絵とかはたくさんあつたけど、こ  
われた三輪車とかいろいろなものがあつて、べんきょうになつたよ」  
といわれたことで、私も、広島に原爆について学びにいってみたい  
と思ひました。三つ目の理由は、学校で『火垂るの墓』を見たこと  
です。『火垂るの墓』を見て、戦争はこんなかんじだつたんだなと  
思ひ、広島に行つてみたいなと思ひました。

一日目は、平和記念資料館に行きました。平和記念資料館には、  
こわれた三輪車、当時の服、戦争の写真、被爆でやけどをした人の  
写真など色々なものがありました。それらのものを見て、戦争は、  
今では考えられないほどつらくて、悲しいものだと思ひました。

次に、被爆体験者の講話を聞きました。被爆体験者の人は7人家  
族で、当時6才だつたらしいです。被爆した時は、カニをつかまえ  
ようとして、しゃがんだしゅんかんに被爆したらしいです。このよ  
うな色々な話をきいて私は心が痛くなりました。体験者の話を聞いて  
戦争はしてはいけないと思ひました。

夜のミーティングでは、一日目の感想と、平和のメッセージを話  
しあいました。感想とメッセージはみんな思っていることは同じで、

私の班のメッセージは、「平和記念資料館にいつて来年はたくさんの方が来てほしいです。」と書きました。

二日目は、原爆ドームに行きました。初めて原爆ドームを見た私は、ものすごく大きくてびっくりしました。被爆する前はもつと大きかったんだなと、思いました。

次に、原爆の子の像に折り鶴をささげました。たくさんの方が折り鶴をささげていました。

追悼平和祈念館にも行きました。原爆を体験した人のお話をえいぞうでみて、心にのこり、べんきょうになりました。

二日間、楽しくてべんきょうになりました。これからはかくへいきもつかわず、戦争もない世界になればいいと思いました。私たちに貴重な体験をありがとうございました。

## 広島派遣団に参加して

寺田南小学校 6年 山本 大輝

まず最初に、どうして広島へ行きたいと思ったのか。それは、今まで学校の国語の教科書や特別授業で原爆のことを知って、当時の状況やまちのことをもつと知りたいと思つて参加しました。

一日目は、平和記念資料館に行つて被爆者から戦争当時の話を聞きました。話を聞くまでは、原爆なんてただの爆弾みたいなものだと思つていました。でも被爆者の話を聞いて、とても怖いものだと分かりました。原爆に耐えても、後遺症で亡くなつたり、餓死したり

するということが分かりました。特に印象に残つたのは、原爆が落ち一週間ぐらいたつた後の話でした。一週間がたつと、病気で亡くなる人や行方不明の人たちがたくさん出てきたということでした。それで家族を失う人が増えてくると、僕は知りませんでした。家族を失うなんて僕は耐えられません。でも、家族が死んで自分だけが生き残るのなら、家族の分も僕が生きようと思いました。

二日目は、広島平和記念公園に行きました。広島平和記念公園には原爆ドームがあり、本で見るより大きかったのでびっくりしました。また、原爆ドームの周りには、がれきがたくさん落ちていました。

広島平和記念公園には、原爆の子の像があります。この像は、原爆で被爆し、白血病で入院して亡くなった、禎子さんという子供の像です。像の周りにはたくさんさんの千羽鶴がありました。禎子さんと同じ気持ちの人がたくさんいるのだと僕は思いました。親や自分の子供が死んだり、行方不明になったり、悲しい思いをした人がたくさんいると知りました。

戦争は、今でも昔でも、絶対にしてはいけないことだとよくわかりました。戦争のせいで、こんなにも苦しい思いをする人がたくさんいると、僕は知りました。戦争なんて絶対にやったらダメ。原爆なんて絶対に落としてはダメ。ということが今回のことでわかりました。

最後に、連れて行つてくれた先生や、戦争の話をしてくれた人や、広島の人たちに感謝します。

## 広島派遣団に参加して

寺田西小学校 6年 下村 奈央 央

私が広島派遣団に参加した理由は、何となく知ってるだけではなく、もっと詳しく、深く戦争について知りたいなと思ったので、参加しました。

行く前に一度、広島の前爆を経験した人の体験談を聞きました。そこで、とても大きな音が鳴っていたとか、実際にあった話を色々とかわしく聞かせてもらい、その時点ですごく心が痛みました。その話を聞いて、もっともっと、広島に行ったら戦争などについて知ろうと思いましたが、早く行ってもっと詳しく深く知りたいなと思いました。

広島に行く当日は、どんなことを知れるのか、早く知りたいなという、どきどきした気持ちでいっぱいでした。一日目は、原爆資料館に行きました。その資料館には、焼けた服や、一つ一つの写真の下には文もあり、見ていて本当にこんなことがあったのかと、ありえない！と思いました。そのあとは、被爆体験者さんのお話を聞きました。お父さんの皮膚が火傷でつるつむけて、皮膚が垂れてみんなが並んでいる行列が幽霊の行列のように見えた、などの話を聞くと、そのようなものを現実だと認めたくなくても、目の前のこうけいを現実だと受け止めるしかないんだなと思いました。

被爆体験者の方が家族六人をたった一発の前爆で失ってしまったと聞いたときは、そんなの想像できないと思いました。自分がもしその立場になったら、家族が一瞬でいなくなるというその状況を受

け止めきれないなと思いました。

二日目には、広島平和記念公園に行き慰霊碑に花を捧げ、原爆の子の像に折り鶴を捧げることをしました。広島平和記念公園では、近くで原爆ドームを見て、教科書などで見た写真や絵が目の前にあり、これが原爆ドームなんだと改めて思いました。原爆の子の像に折り鶴を捧げました。そこには、たくさん折り鶴がありました。そこでたくさんの方が平和を願っているんだ、ということをお改め感じました。私は、これから二度とこのような悲惨なことがおこらない平和な世の中になったらいいなという気持ちを込めて折り鶴を折りました。

この二日間でいろいろな戦争の恐ろしさや悲しさやむなしさを知ることができました。私は、一人一人が「戦争をやめよう」という心を持たないと、戦争はなくならないなと思います、これから一人一人がどういう考えで生活していくかが大事だなと思いました。そして、この大切な機会をみんな失わないでほしいなと思いました。思い切った参加してみても本当によかったです。来年は今年よりもっと多くの人が参加して、自分たちが何をすべきなのか、何を感じるべきなのか、ひとりでも多くの人に感じてもらいたいと思いました。本当にありがとうございました。



## 80年が過ぎても

寺田西小学校 6年 中西陽愛

私のおじは、この広島派遣団の第一回目の参加者です。夏が近くと母からその時の話をよく聞いていました。そして五年生の時に担任の先生から戦争の話を聞いたり、国語の学習で『たずねびと』という物語に出会ったりして、広島への興味が深まりました。その時、仲の良かった友達と、来年一緒に広島に行こうと約束をして、六年生になった今、実現することになりました。

まず、バスから原爆ドームが見えた時は、一気に空気や世界が変わった感じがして衝撃を受け、思わずカメラを向けていました。

一日目、平和記念資料館へ行ったり、被爆された方の講話を聞いたりしました。この日本で本当に起きた出来事なのかと思うほどの資料や写真を見たり、お話を聞いて、心が痛むことがたくさんありました。私はその時には生きていなかったで「かわいそうだな。」としか言えませんでしたが、二度とこんなことをしてはいけません、起きてはいけませんと強く感じました。もう戦争はしてはいけません、核兵器を使うようなことも、してはいけません。原爆のせいで罪のない人がたくさん亡くなってしまうと悲しいけれど現実です。日本でこんなことが起きたということを、日本の子どもたちだけではなくて、世界中の人たちにも、これからもしっかりと伝えていかなければならないと思いました。

二日目は、原爆ドームを見学したり、慰霊碑に行き、原爆の子の像の所に千羽づるを捧げたりしました。何とか生き抜いた人たちも、

白血病や後遺症に苦しめられながら生きていかなければいけなかったことを知り、驚きました。中には家族を亡くした人もいたと思います。その辛さを思うと、原爆の恐ろしさをさらに強く感じました。私には、生まれつき「仏眼相」という、手相の一つで、目の形をした相があります。この相を持つ人は、直感力や霊感がとても鋭いと言われていて、目に見えないものを感じやすい傾向があるようです。実際、亡くなった人が私にだけ見えるということが生活の中です。

一日目、平和記念資料館に入った時に、自分の体に、何とも言えない重さや冷たさを感じました。その時は、何も思わず過ごしていましたが、夜になり、部屋のみんなが寝た後、一人になった頃から、急に悲しさや痛さが一気に体をおそってきました。疲れているはずなのに、目には見えない、上手く伝えられない違和感と過ごし、寝られない夜になりました。きっとそれは、命を落とした方々から、私へのメッセージだったのだと思います。80年が過ぎた今でも、亡くなった方の思いは残り、生き続けています。

この二日間で、貴重な経験をして、知らなかった世界を知ることができました。いつか、誰も悲しまない平和な世界になることを願っています。そして、今回学んだことを、私なりに、私ができる方法で広めていきたいと思いました。

## 広島に行つて

今池小学校 6年 新谷 妃彩乃

私は、今回の平和のための小中学生広島派遣団を友達に教えてもらつて知りました。友達も行くと言っているし、親にも行った方がいいと言われたので行くことにしました。広島に原爆が投下されたことや長崎県の原爆のこともテレビやスマホで知っていました。私は原爆ドームを一度でいいから見てみたいなと思つていました。私は原爆ドームを見て、とてもポロポロで、それでもくずれないからすごいなと思つました。なので、バスにのつての間や、バスに乗る直前、当日の朝にはとくに、心臓がバクバクしていたと思います。そのときは、きんちようと、たのしみという感情がまざり合つていたと思います。

私は広島に行つて、まずさいしょは昼ごはんをたべました。そのあとに平和記念資料館へ行つて、企画展示などを見ました。そのとき見た写真や絵、実物などは今でも忘れていません。私が大人になつていくときには忘れていくかもしれないけれど、できれば、今回の広島派遣団のこと、広島に行つて考えたことを忘れないようにしたいと思います。

平和記念資料館の写真を見て私は、一ぱつの原子爆弾で、こんなことになるんだなと、あらためて原爆のおそろしさを実感しました。そして、次に被爆体験者のこう話を聞きました。このときにも原爆はすごいなと思つたり、やっぱり原爆は使つてはいけないものだなと思つたり。私はこう話を聞いているときに、すこしだけなみだ

目になりました。なぜか、でも多分、もし自分がそこにいたら、と考えたり、原爆の爆しん地のちかくにいた人の話などをきいていて、こわいと思つたからだと思つています。ミーティングのとき、さいごに庄野先生の言葉をきいて、人をきずつかけたり悪口などを言わないように心がけています。

そして、二日目は、原爆ドームを見たり、爆しん地に行つて、原爆は空で爆はつたことを知りました。次は、班でおりづるや花をささげました。昼ごはんは自分たちで作りました。作つたのは広島風お好み焼きです。上手にできるか不安だったけど、意外に上手くでき、うれしかったです。このときにレシピアやソースをもらつて、家でも広島風お好み焼きを作つてたべています。広島で作つたものは、ちゃんとした具材だから、とてもおいしかったです。かえりのサーブスエリアでおみやげをいっぱい買いました。キーホルダーや小さいぬいぐるみみたいなものを買つて、いつも使っているカバンにつけています。

今年はずうど戦後80年だから、テレビとかで広島がよくうつっています。なので、私は、そのようなものを見ようと思つています。学校で戦争の記憶などを風化させないというのを習つていてテレビでよく言われているのでよく意味がわかります。なので、私も、できれば忘れないようにしっかりと語りついでいこうと思つています。

## たった1発の原爆で

今池小学校 6年 松本 柚希

私は、原爆が落とされたときのこと、今の広島について知りた  
いという気持ちから、平和のための小中学生広島派遣団に参加しま  
した。原爆といえば、たくさん命をうばってしまう、とてもおそ  
ろしいもの、そんなイメージが頭にありました。

そんな私は、軽い気持ちで平和記念資料館に入りました。すると  
そこには、原爆で亡くなってしまった人たちが着ていたボロボロに  
なった服、原爆が落とされたときの状況が描かれた絵、そして、か  
べにうつされたかげなどがあり、今思えば信じられないような、悲  
惨なこうけいが目にうつりました。私は、いつきに心がずんと重た  
くなるのを感じました。

次に私は被爆者の方の講話をききました。被爆者の方は、自分の  
家族が原爆によってたくさん亡くなってしまったこと、被爆者の方  
のお母さんは、夜に苦しそうにうめき、のびをした後、息をひきと  
ったこと、たった1発の原爆のせいで、何の罪もない人々が一瞬に  
してこの世界から消えてしまったことを私たちに伝えてくれまし  
た。「たった1発の原爆」という言葉をすごく強調していた被爆者  
の方を見ると、ものすごく悲しそうな顔でした。でもそんな顔には、  
「原爆は絶対落としてはいけない」「原爆がにくい」といったような  
原爆に対する強い気持ちも感じました。

広島に行く前に、私は一度、文化パークで榎郷子さんという被爆  
者さんの話を聞かせてもらいました。榎さんは話をしてくださった

ときに、「戦争なんて絶対してはいけない。だって、だれも得しない」  
とおっしゃっていました。私はその言葉に「本当にそのとおりだ」  
と感じました。だれも得しないのに戦争するなんて…と、戦争が本  
当ににくく思えました。そのような榎さんのお話を思い出しながら  
被爆者の方のお話を聞くことができました。

2日目の原爆ドームでは、ニュースなどで見たよりも、原爆のお  
そろしさが伝わってきました。原爆ドームの骨ぐみであろう鉄は、  
ところどころがグニャンと曲がってしまっていたり、かべなどはほ  
とんどがはがれて落ちていました。何とも言えないくらい残こくな  
姿でした。

私はこの2日間を通して、原爆の恐ろしさにあらためて気付くこ  
とができました。広島に来るまでは、原爆は地上に落ちて、原爆ド  
ームが爆心地なのだと、そんなふうに、原爆のことを知った気にな  
っていました。ですが広島に行つて、まだまだ原爆について知らな  
いことってたくさんあったんだと、実際に行つて学ぶことの大切  
さにも気付きました。今回の広島派遣団で学ぶことができたことを  
活かして、もう二度と戦争がおこらない、原爆が落とされないため  
に、自分にはなにができるのか考えていきたいと思いました。命の  
大切さ、原爆の恐ろしさ、平和のすばらしさを学ぶことができて、  
本当に貴重な時間でした。ありがとうございます。

## 世界平和

富野小学校 6年 太田 勘解由

僕は、戦争についての知識を深め、平和な社会に少しでも貢献したいと思い、七月三十一日から八月一日の広島派遣団に参加しました。そして、資料館に行き、被爆者講話を聞いてきました。資料館には、原爆投下直後の爆風や、熱線、放射線の影響で、人影が残った階段、折れ曲がった鉄骨、ぼろぼろになってしまった服、熱で変化したガラス瓶、ご飯が黒く炭化した弁当箱、止まった腕時計などが展示されていました。人骨の写真、皮膚が焼けただれた人の絵も展示されていました。原爆投下直後に降った黒い雨や、放射線を浴び、何も悪くない人が何万人、何十万人；無数の人々が亡くなりました。長崎でも、無数の人々が犠牲になりました。

被爆者講話で分かったことが三つあります。一つ目は、「熱線」です。約三〜四千度の熱線を体中に浴び、人々は川へと向かいますが、上流から人々が流されてきたことを知り、熱線は恐ろしいものだと思いました。

二つ目は、「強烈な爆風」です。原爆投下直後の強烈な爆風によって、構造物の一部や、屋根、瓦、窓ガラスなどが吹き飛ばされました。なので、爆風は相当すごかったんだろうなと思いました。

三つ目は、「大規模な火災」です。原爆投下直後、熱線、爆風、放射線、圧力、そして大規模な火災が襲いかかり、広島を街を一瞬にして焼け野原へと変化させました。なので、火災の威力は凄まじいと思いました。

資料館に行き、被爆者講話を聞き、こうした戦争の悲惨さを目の当たりにし、核兵器や戦争は、あつてはならないことがよく分かりました。しかし、現代社会において、核兵器を保有している国は何ヶ国もあり、今も紛争が続く、困っている人々はたくさんいます。世界で核兵器を保有したり、戦争を起こすことは絶対にいけないことだと思っています。そして、一日でも早く全世界から戦争や核兵器がなくなることを願っています。そして、平和な時代に、ここに生まれたことへの感謝を忘れず、まずは僕の身近な友人や家族に温かい言葉をかけ、思いやりのある行動をとり、共に平和な社会を築いていけるよう頑張ります。

## 広島で実際にあったこと

富野小学校 6年 小久保 沙紀

それまで興味のなかった広島に、行きたい気持ちがいっきにわいてきたのは、国語の「たずねびと」という物語でした。このお話を読んだ時に、「ここはどんなことがあったんだろう。そして今、どうなっているんだろう。」と、行ってみたい思いがあふれてきたのです。

一日目、バスに乗って最初に行ったのは、原爆資料館でした。入ったしゅん間、重々しいふんいきが辺りを飲みこみました。それまでさわいでいた人も静かになり、班ごとに分かれて行動し始めました。広島に落ちた原爆がどれ程おそろしいかということに気がついたのは、入り口に展示されていた一枚の写真でした。頬や腕にまか

れた包帯は、何とも言えない苦しさを表しているようでした。中に入って一番初めに飛びこんで来たのは、ガラスケースの中にあるポロポロの布切れのような服でした。入り口で借りた音声ガイドによると、その服を着ていた人はほとんど私と同一年であることが分かりました。血が付着している服もありました。この服を着ていた人は、大体、爆心地から一・二、三キロメートルはなれたところで被爆しています。説明によれば、半径二キロメートルのきりまではい力が届くそうです。その後、ぐしゃぐしゃのお弁当箱、ポロポロの三輪車、布きれのような学生服…この日、この場所で何が起きたかを知るたびに、私の心はとても痛みました。原爆で亡くなった方の遺品や写真を見て、その前までの平和が続いていたらなと、ふと思いました。その後、被爆者の内藤さんにお話を聞きしました。内藤さんの一つ一つの言葉には、思いがすごくこもっていました。夜のミーティングで千羽づるに「世界平和」と書きました。これが本当に叶ったらな…そう感じました。

二日目、原爆の子の像に折りづるを捧げ、死没者追悼平和祈念館を見学する前に慰霊碑に花を捧げました。一つ一つの物にたくさんの思いが込もっていました。やはり原子爆たん等のかく兵器はどんな理由があっても、使ってはいけない、と見学を二日間した後で考えることができました。

今は平和な広島ですが、一九四五年八月六日、午前八時十五分に落とされた原爆によってたくさんの方が亡くなり、色々な場所や建築物がこわれて焼け野原になり、なんとか生き残っても、その十数年後、他の病気で亡くなってしまうということがありました。私達の住む町、城陽市は緑豊かな町ですが、一発のかく兵器、原子爆た

んによって、建物はこわれ、一面焼け野原、道には遺体が積み重なり、歩いていく人も全身やけどを負い、言葉では表せない程のおそろしさになってしまいかもしれません。私は世界中の国が戦争や争いがなく、平和な未来が来ることを、心から願っています。今回は、とても貴重な体験をさせてくださりありがとうございました。

## 1945年8月6日の出来事

富野小学校 6年 辻 權海

僕が今回、広島派遣団員に応募したきっかけは、仲の良い友達に誘われたからと、「原爆」について詳しく知らなかったため、8月6日の朝に何があつたのかが知りたかつたからです。

まず初めに、僕は原爆資料館に行きました。資料館では、全身焼けただれた女性の写真や、約3000度の熱線により焦げた三輪車などがあり、広島の人たちが、一瞬にして亡くなった事が思い知らされ、僕は胸が苦しくなりました。また、資料館内では写真や絵、実物、音声のガイドまであり、原爆についてより詳しく考えることができました。資料館の次は被爆者の方のお話を聞きました。今回聞いた被爆者の方は、爆風で、たまたま防空壕に入り、火傷などの傷一つなく避難できたとおっしゃっていました。そのことを知り、被爆者の方は皆、生きていること自体が奇跡だなど思いました。また、自分の身に起きた悲惨なことを思い出してまで、僕たちに話してくれることをありがたく思うと共に、8月6日に何があつたのか

を原爆を知らない人に話し続けていかなければならないと、より深く思いました。被爆者の方のお話を聞いた後は旅館に行き、一泊し、2日目になりました。

2日目は原爆ドームや原爆慰霊碑に行きました。原爆ドームは写真で見た事はありませんが、実際に見る事は初めてでした。初めてという事もあり、原爆ドーム、正式名称 広島県物産陳列館をみて、衝撃を受けました。熱線により、ところどころ骨組みだけになっていたり、頑丈そうな鉄の板がひん曲がっていたりしていたからです。それを見て僕は、原爆の大きさや威力などが目で見て分かりました。だからこそ、原爆は二度とあつてはならないし、戦争もあつてはならないと改めて思い知りました。その次は原爆慰霊碑にお花を捧げ、千羽鶴を飾りました。

今回、広島派遣で印象に残ったものは3つあります。1つ目は、被爆者の方のお話です。やはり被爆者の方のお話はより詳しくて分かりやすく、原爆はどんなものだったのかがよく分かり、お話を聞くことで、聞いた話を話し続けていかなければいけないと、より深く思い知ることができたからです。

2日目は原爆資料館です。現物を見たり、絵・写真を見たりする事で本当にこんなことがあったんだということを考えやすいですし、より生々しいというか、原爆のこわさが伝わりやすかったからです。

3日目は今回行った場所全てです。なぜかというと、日本だけでなく、多くの国の人たちがいて、みなさん原爆について知ろうと一生懸命、展示物を見ておられていたからです。そして、多くの国の方が原爆について知り、自分が見たことを自国でも話し続けてくだ

さると、多くの国が原爆について理解し、戦争は絶対にやってはならないと、多くの国が理解して、より戦争が起きにくいかなと思っただからです。

このように、僕は多くのことを広島に行つて学び、知ることができました。何度も言いますが、やっぱり1番は原爆について知り、8月6日に何があつたのかを多くの人に話すことが大事だと思いましたが、なんでも武力で黙らそうとするのはだめだと思いました。

最後に、世界ではまだ多くの国が戦争をしています。この現状が少しでも良くなることを僕は日々、願っています。



## 原爆による被害

富野小学校 6年 寺田 侑豊

僕は、広島でおきた戦争や原爆を受けた被爆者の話を聞いて、戦争の印象が広島学習の前と、大きく変わりました。資料館での内藤さんのお話は、とてもつらいものであって、あたりまえの生活が一発の原爆で、あたり前ではなくなってしまう、内藤さんは家族七人の内自分一人だけ残って、そこには、苦痛という言葉だけで言い表せないほどの感情があったと思います。

そして、人々は、体がとけ、体中真っ赤になり、生きているのか死んでいるのか、女性なのか男性なのかわからない存在となり、その人達は川に向かって歩き、原爆のえいきょうでやけどをして水を求めるさまは、本当に苦しく、この地獄以上の場から一秒でも早く抜け出したかったと思います。

被爆時に生き残ったとしても、原爆のえいきょうで脳出血で死んだり、放射線に当たって、かみは抜けだし、目が見えなくなったりと、地獄はまだ待っていました。

行方不明になった人、死んだ人の遺品などを見つけた家族は、せめてもの救いだっただと思います。なぜなら、存在が残らず、その人のことを思いだせるすべがなくなるよりかはマシだと思ったからです。その人達の遺品や被爆者の方々の想いがあったからこそ、ここまで想いが伝わったのだと思います。

見学をする前は、戦争はおそろしい、原爆はあぶないものとしか思っていなかったけれど、被爆して家族を失った人々の気持ちや、

その後の生活、戦争のはいけいなどを考えられるようになって、他人事だったことが、自分だったらどうだろうと、自分事に感じるようになってきました。

世界の中ではまだ戦争が続いていて、今回学習した戦争のように、罪のない人々が苦しむようなことは今回が最初で最後であってほしい、このような戦争を減らすには、古い世代が新しい世代へと受けついでいって、世界に戦争のおそろしさを教えることが大切だと思います。被爆時に生き残った人は、現在も障害をかかえて生きているからこそ、その人達が苦労した分、僕らが戦争についてしっかり考えることが、僕らができることだと思います。

原爆が落ちて来た時、その場にいた人は原爆を見ていて、次のしゅん間には原爆が爆発して、その場にいた人々は自分が今から死ぬと考える時間もなく、かげとなつて死んでいくさまは、戦争のざんこくさを物語っていて、本当に原爆はおそろしいものだと思えて思いました。慰霊碑の形は、人が手を広げてその真ん中に炎があり、その炎は核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けようという意味があり、被害を受けた人の想いがそこにつまっています、本当に人々が、核兵器が世界中から無くなつてほしいと思つていることが分かりました。

原爆が落ちる前は、空襲による火災を防ぐため、周りの家などはこわされていって、被爆者の方や死んでいった人々の日々はとてつもなく辛いものであったから、被爆者の方は残りの寿命を、死んでいた人々は、あの世で少しでも報われてほしいなと思えました。

## 広島派遣に行つて感じたこと

富野小学校 6年 富田真司

ぼくは広島派遣に行つて、自分が思つていた戦争のこわさや、原爆のおそろしさが、原爆が投下された場所、広島県に行つてみたら、全然自分が思つていたこととちがつていたのでびっくりしました。

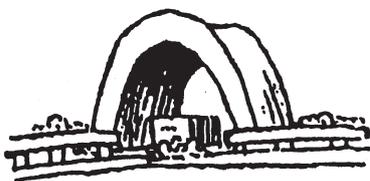
ぼくは、資料館に行つて思つたことが2つあります。1つ目は被爆体験者の話です。被爆体験者の話では、当時の社会や、原爆が爆発したしゅんかんの事とか、色々なことを学べたし、自分自身も聞いていてすごく悲しかったけど、家族を目の前で亡くしたお話をしてくださつた方の方が、もっと悲しいんだろうなと思つて、今回の話を忘れずに、家族にも友達にも色々な人に伝えていきたいなと思いました。

2つ目は資料館の資料です。理由は、熱線を浴びた人のかげがついた階段や、亡くなった人の写真、熱線を受けて大やけどをおつた人の写真と、色々な人の写真があり、ぼくはそれらを見て原爆のおそろしさがあらためてわかりました。だからぼくは、本当は原爆等の核兵器は使つてはだめだけど、あの日があつたからこそ、ぼくたちは今、核兵器のおそろしさや、戦争をなぜ、してはいけないかをよく知れたんだと思ひました。

他に原爆の子の像での折りづるの量を見て、すごくたくさんの方が原爆の子の像に来ているんだなと思つたし、公園では、花もいっぱいあつたし、外国人も多かつたので、外国からも見に来てくれるんだなと思ひました。他に、追とう平和祈念館での文章では、色々

な事が書いてあり、それを読んでみたけど、色々ありすぎて読み切れませんでした。だけど、一部は読めたので、すごく勉強になりました。それに、水をもとめている原爆死ぼつ者に水をあたえるようにと、水をわきださせるような物もあり、亡くなった人たちの事をすごく考えていたのだなと思ひました。追とう祈念館の最後にあつた被爆体験の音声での話も、本当にまちかで聞いているような感じで、ちよつと心臓がバクバクなつてしまいました。

ぼくは、この広島派遣に行つて色々な体験ができました。おこのみ焼き体験は初めてだったから楽しかったです。この2日間での資料館の見学では、悲しいこともいっぱいあつたけど、宿で楽しくできました。追とう平和祈念館では、死ぼつ者の名前けんさくや動画での被爆体験者の話を聞いたり、色々なことを学べたので良かったと思ひます。最後に平和記念公園で花を供えたり手を合わせる時に、自分の思いをしっかりと伝える事ができたので良かったです。



## 広島に行つて感じたこと

富野小学校 6年 西村 咲智子

私が広島派遣団に参加した理由は、学校で配られた案内チラシを見て、戦争や原爆でどんなことが起きたのか、知りたかったからです。その時、私は、原爆がどんなに恐ろしいものか、よくわかつていませんでした。

一日目は、平和記念資料館に行きました。そこには、実際に被爆した人の写真や、身に着けていた物、絵がありました。写真には、顔や全身をやけどしている人、原爆が落ちた後の町の様子などがありました。初めて、やけどした人の写真を見た時は「痛そう」よりも本当にそんな人がいたのかと思いました。とても人間とは思えませんでした。説明文を読んで、やっと、やけどした人だと分かりました。原爆が落とされた後の町の様子は、これも信じられません。何もかもが、誰かが作った作り話のように思えてきて、信じられません。さらに、被爆した人の服などもありました。それをがれきの中から見つけた遺族の人たちは、どんな気持ちだったのか、死んだとは、まだ決めつけたくなくなかったです。私は、今まで原爆そのものは、戦争の爆撃よりもましだと思っていました。でも本当はもっと大変だった事がここでよく分かりました。

二日目は、慰霊碑に行きました。慰霊碑には、一人一人花をささげました。そして原爆の子の像に折り鶴をささげに行きました。そこから追悼平和祈念館へ行きました。そこで一番印象に残っている

事は、被爆体験者の映像です。見ていて被爆した場所は違いましたが怖い思いをしたのは、みんな同じなんだなと思いました。

宿泊施設についた時、私は「広島町はきれいな景色だなあ」と思いました。でも八十年前は、同じ景色のはずなのに、何もなかったのだろうかと思いました。日本は今、安全ですが、外国ではまだ戦争が続いています。今願う事をするのなら私は、「世界が平和になりますように」と願うと思います。

今回、広島に行つて学習したことは、たくさんあります。このような貴重な経験は、これまでもこれからも、なかなか無いと思います。でも、今回の経験を活かして、今後、私たちが大人になった時、自分の子供に戦争や原爆について伝え、またその子供に伝わって行くのが大切だと感じました。今回は、広島派遣団に参加して本当に良かったです。

## 広島での経験

青谷小学校6年 加納 まお

二〇二五年、七月三十一日〜八月一日の二日間で小中学生広島派遣団に参加したため、広島県へ行きました。私が平和のための小中学生広島派遣団に参加しようと思った理由は、父や母のすすめと、戦争のことについてもっとくわしく知りたいと思ったからです。

広島県に着いた時は、きれいな町で、ここに原子爆弾が投下されたなんて想像もできませんでした。

今から八十年前の一九四五年、八月六日の八時十五分。広島に原子爆弾が投下されました。

一日目は、平和記念資料館へ行きました。そこに入ったときは肌寒く、なんとも言えないふんいきに感じました。資料館の中で、はじめに印象に残ったのは、展示物です。その中には衣服や日用品、人がけがをしている写真なども展示されていて、とっても苦しい気持ちになりました。原子爆弾で十数万人の人が亡くなられていて、被爆者の方からは、とても貴重な講話を聞きました。そのお話の中で、当時経験したことや、本や教科書ではあまり分からない戦争のこわさなどを分かりやすく伝えて下さいました。それによって、自分が思っていたよりもひさんだったことが分かりました。

夜のミーティングでは、一日のふり返りで、一人ずつ意見を発表しました。他の人の意見を聞いて、自分が思っていなかった意見が聞けて、「戦争は二度とほしくない」という思いがより、強くなりました。一人ずつ五十羽作ったおりづるをまとめて、二日目に

原爆の子の像にささげました。

二日目の追悼平和祈念館では、亡くなられた方の写真がうつし出されていて、こんなにもたくさんの方が戦争の攻撃で一しゅんにして命を失われてしまうと考えると、むねがしめつけられるような気持ちになりました。

その後は、昼食に広島風お好み焼き体験をさせてもらいました。はじめての体験で、大変だったけど、みんなと楽しくいただきました。美味しかったです。でも、戦争とは、こんなにも楽しいときをもすべてうばってしまう、とても危険なものだと改めて思いました。今でも、世界では原子爆弾をもっている国があります。原子爆弾は作ってはいけない。もっていてもいけない、という考えが深まり、広島の人たちは長い年月、今も苦しめられていることも分かりました。このことを家族や友達にも伝えていきます。

今回、平和のための小中学生広島派遣団に参加させていただき、貴重な経験をしました。これからの知識として、活用したいです。

## 原爆の恐ろしさ

青谷小学校 6年 中野 結菜

私が平和のための小中学生広島派遣団に応募したきっかけは、去年、家族旅行で広島に行って資料館を見学したかったけど、休館日が入ることができなかったから、見学したいと思って応募しました。最初は、戦争を経験もしたこともないし、テレビやニュースで見た

ことや聞いたことしかないのです、他人事の様な感じでした。

被爆体験者の内藤愼吾さんの話を聞きました。原爆の爆発は一瞬で、温度はとても高温で3000〜4000度になります。その一瞬でやけどをして、すぐに亡くなってしまいう人もいるけど、生き残っても、何十年も原爆症という後遺症が残ってしまつて、不自由な生活をして、苦しんでいるそうです。

原爆資料館では印象に残ったものがあります。それは人影の石です。人影の石とは、近距離で原爆が炸裂し、逃げることもできないままその場で亡くなった人のあとです。原爆の強烈な熱線によって白っぽく変色したそうです。原爆の爆発の一瞬で死んでしまつたと思うと恐ろしかったです。他にも黒い雨がついた服がありました。黒い雨は、体にあたると、放射性物質を含んでいるから下痢や脱毛を起こしたそうです。一瞬で死んでしまつても怖いけど、生き残つても後遺症が残つてしまつて、苦しみ続けて生きていくことになるから、死んでしまつても生きていても、辛い人生になると感じました。展示されている物は、お弁当箱やすいとうや自転車や時計等があつたけど、すべて真っ黒こげでした。それを見てとても恐ろしくて怖くなりました。

広島市の街の写真がありました。コンクリートの建物や原爆ドームは、鉄筋がそのまま残っていて今にも壊れそうです。きつと原爆前はきれいな街で、住んでた人たちは楽しく過ごしていたけれど、原爆によってすべてが焼け野原になってしまつて、見ている気持ちが悪く感じました。

戦争は罪もない小さな子供や大人たちが死んでしまつて、誰も幸せにはならないし、良いことは何一つもないと思ひました。今、日

本では戦争はないけど、世界のどこかで戦争が起きているとニュースで聞いたことがあります。テレビで、傷ついた人達が逃げている映像を見て、その人達は本当に怖がっている顔をしていました。調べてみるとシリア、イエメン、ウクライナ、イスラエルなどで戦争が起きているそうです。その国にも私たちと同じような子どもがたくさんいて、苦しい思いや、辛い思いをしている人がたくさんいるから、戦争をすぐにやめてほしいと思います。

また、社会の資料で、核兵器を持っている国は、ロシア、アメリカ、中国、フランス、イギリス、パキスタン、インド、イスラエル、北朝鮮だと書いてありました。たとえ落とす場所が日本じゃなく他の国だったとしても、絶対に使わないでほしいし、何なら廃棄してほしいと強く願います。

今年で原爆が落とされてから80年になります。当時の戦争を経験した人や原爆の被爆者たちは高齢になり、経験されたお話を直接聞くことができなくなつていきます。だからこそ、今回お話をきいた私たちが、戦争を経験した人たちの辛い思いや苦しかった出来事を語り継いでいかなければならないと思ひました。

展示されている資料などを、実際に目で見るのはとても怖かったけど、とても勉強になりました。平和のための小中学生広島派遣団に参加させていただきありがとうございました。

## こわれた平和

西城陽中学校 1年 宇田 心 咲

平和とは何か考えたことはありませんか。おいしいご飯が食べられること、家族と一緒にいられること、ずっと幸せでいられること。そして、戦争というものが無いこと。このようなことが平和なのでしょうか。

私が「小中学生広島派遣団」のことを知ったきっかけは友達でした。去年、私の友達が、この「小中学生広島派遣団」というものに応募し、広島県に行きました。当時の私は「楽しそうだな」とか、「ちよつと面白そうだな」くらいの軽い気持ちしかありませんでした。中学生になって、「原爆ドームが見てみたい」「友達と行ったら楽しそう」と思っただけで参加していませんでした。

この2日間、私はとても楽しかったです。この前まで顔も知らなかった班の仲間と楽しく昼食を食べたり、私の友達と一緒にお菓子を食べたり。でも、悲しくもなりました。実際に、広島平和記念公園に行つて戦争のことを知ったからです。特に、平和記念資料館で悲惨な写真や絵、三輪車などを見たとき、とても胸が苦しくなりました。説明が聞ける機械で、絵などを見ながら聞いていると、もっと悲しくなりました。今のような平穏な生活ができない人々がいっぱいいたんだなと思いました。

次に内藤さんの話を聞きました。内藤さんは6歳の時にたまたま防空壕の中で被爆したそうです。その時、内藤さんは、なすを兄弟で取り合っていて、捨てた台詞を吐いて防空壕の近くに行つたそうです。

す。そして被爆したそうです。バーンと音がして爆風が吹いてきて、澄みきつた青空が紫色に染まったそうです。そして、周りにはやけどをして皮膚が垂れ下がっている人の列、道端に倒れている人達もいて、川にはたくさんの方の遺体が浮いていたそうです。

まさに、地獄絵図。このようなことを内藤さんから教えてもらい、戦争はとても恐ろしい事だと改めて感じました。

次の日、原爆ドームを見に行きました。原爆ドームは、私が思っていたよりも大きく、存在感がありました。この原爆ドームが、被爆した時から戦争の恐ろしさ、核兵器の恐ろしさを教え続けてくれていたのだと思うと、ありがたいと思いました。

私が慰霊碑に花をささげるとき、被爆した当時の人々はこんな清々しく、温かな日を迎えたかったのではないかと、家族と手をつないで歩きたかったのではないかと、思っただけで本当に可哀想でたまらなくなりました。亡くなられた方、けがや病気になつてしまわれた方の分まで、この命を大切に生きていこうと思えました。

このように被爆した方々は自分たちの幸せを一瞬で奪われ、悲しみ、苦しんだ。これを平和とは言えない。私は、みんなが笑って過ごせる時が平和というものだと思います。たつた一発の爆弾で奪われたみんなの平和、次にこのようなことが起きないように、私たちの世代が伝えていかないといけないと思えました。平和は一瞬でこわれる。けどその一瞬まで精一杯生きて、幸せに暮らさないとけないなと思います。

## いつもどおりをまた迎えるために

西城陽中学校 1年 清澤 ほのか

「原爆は二度と落としてはならない」この言葉は、私が生きてきた十二年の間で数え切れないくらい聞いたことがあります。私は他の人に流されやすく、そのような話を聞いても恐いなあ、と思いつながらまた同じ日々をすごしていました。そんな年の夏初め、親友に広島派遣に行ってみないかとさそわれ、一緒に行くなら、と承諾しました。

揺れるバスの中で私は、「これから一緒に行動する人と仲良くされるのか」だの「人が沢山いるのだろうか」だの考えていたのですが、資料館に着いて、何も言えなくなりました。痣（死の斑点と呼ばれるもの）が、いくつもでき衰弱した人や、私と同じ、年端もゆかぬ少女の、原形をなんとかとどめた焼死体の写真。誰かが誰かに向けて書いた、届かなかった手紙。すべてが印象に残って、そして悍ましく映りました。

こんなことを書くのもどうかとは思いますが、原爆の話を持ちだすと、すぐに「でも日本が先に攻撃したから」「外人に日本に来るな」と、どちらが悪いかをすぐ決めようとする人がいます。そのような人々は、子供のころにこれを見て何を感じ、何を学んだのかがわかりません。私が一番に恐ろしく感じたのは「黒い雨を飲む女性」だったのですが、なんでこんなにむごい絵をかけるんだと考えました。おそらく実際に見て、目のあたりにすると、絵というフィルター越しに見るのでは全く違うのでしょうか。こんなに、こんなに

ショックを受けたけれど、実際に見た人より数十倍ましだということに、少しの安堵と、またショックで心がグチャグチャになりました。

話がそれましたが、その日の夜、最初にバスの中で思っていたことなんてすっかり忘れて、みんな（同じ部屋には、私を含めて三人しか居ませんでした）には平気だったという体で寝ました。

しかし、すぐには寝ませんでした。正確に書くとは眠れなかったのです。あの一つの絵でこんなことを考えるなんて、私らしくなかったかもしれません。あの絵をみんなにじっくりしてほしい、みんなに見てほしい、そんな思いで、眠りにつきました。

私はその日に眠り、その日の八時十五分はなにごともなくすごしました。このように、みんな、なにごともなくすごしていただけなのだと考えると、何ともいえなくなってしまうます。すべての人に、戦いで亡くなり、辛くむごい思いをした人に、追悼を。

## 広島を訪れて

東城陽中学校 1年 北之園 奈都

私は七月三十一日から八月一日にかけて二日間行われた、広島派遣団に参加し、原爆の悲惨さを、授業や教科書で学んだ以上のスケールで知ることができました。

一日目、私たちは広島平和記念資料館を訪れました。資料館の入口間近には、プロジェクトによって爆心地が中心となった地図の

原爆投下前、投下時、投下後の様子が映し出されていきました。そこには、投下前の鮮やかな色をした植物は色を失い、鉄筋で支えられた建物でさえも倒壊した様子が、無慈悲に映し出されていきました。それは資料館の片隅で見るとはそぐわない残酷な光景でした。

その後、資料館の地下で被爆者の方から原爆投下時のお話を聞かせていただきました。

その方は、  
「原爆が落とされたとき、爆心地の方角から立つこともままならぬほどの熱風が吹き荒れ、野に散らばっていた小石や枝によって体中に切り傷やあざができました。その時の私は、ただ自身の頭を守り、熱風が止むのを待っていることしかできませんでした。熱風が止み、顔を上げると、そこにはもはや現世とは思えない混沌と化した風景が広がっていました。ある所からは、たすけて。たすけて。という悲鳴に似た呻き声が聞こえ、また、ある所からは声にもならない叫び声が聞こえました。もうその時の私は夢現のまま、ただ突っ立っていることしかできなかったのです。」

と。私はその方のお話を聞き、人間の恐怖心すら無くなるというのには、どれほど恐ろしい出来事なのか、と思いました。

私は広島派遣団に参加し、さまざまな原爆についてのことを知ることができました。今日日、原爆の恐ろしさを実際に知る人は少なくなっています。私は今回、経験したことを、これからも色々な人に広めて行けたら良いと思いました。

## 広島派遣団に参加して

東城陽中学校 1年 瀧 杏莉

私が、今回広島派遣団に参加したきっかけは、友達に誘われたからです。

一日目は、平和記念資料館の見学と被爆者の方によるお話でした。平和記念資料館を見学していると、原爆による熱線などで服は黒くこげたり、血のついた服、穴のあいたぼろぼろの服や、こげて中身がまっくろになったお弁当などが置かれていて、原爆の威力はこんなにも大きかったんだと分かりました。また、たくさんの写真や絵が展示されていて、大やけどを負い、体の皮ふがめくられて、体が真っ赤になっている人の絵や、治療を受けている写真、水を求めて川に飛びこみ、死んでいる人の絵や、ある姉弟が放射線を受け、かみの毛がぬけてしまった写真や、体にはん点がでてしまっている男の人の写真などがあり、すべてがとても残酷な物ばかりでした。街の様子の写真では、まわりの建物がつぶれて、焼け野原になってしまった写真がありました。見ているだけで、とても胸が苦しくなりました。

被爆者の方によるお話を聞きました。被爆者の方は、学校に行きたくなくて学校休んで、地面に大きい力二がいたからつかまえようとして、しゃがんだ瞬間に原爆が落ちて、爆風により、防空壕の中に入って助かったという、たくさんの偶ぜんが重なって助かったんだなど知りました。被害にあった人達は、絶対につらかっただろうし、もう二度と思ひ出したくないほど苦しく悲しかっただろうこと

を、勇気をふりしぼって私達に話してくれたことに感謝しているし、いろんな人に、どんなことだったのかを伝えていきたいなと思いました。

二日目は、原爆ドーム、原爆の子の像、原爆死没者慰霊碑、追悼平和祈念館に行きました。原爆ドームは爆心地のすぐ近くにあつて、炎により、建物は全焼し、屋根の部分は鉄骨がまる見えで、地面には、がれきがたくさん落ちていて、とても原爆の威力がすごかったんだなということがよく分かりました。原爆の子の像では、みんなで作った折り鶴を捧げて、原爆死没者慰霊碑に花を捧げました。その後、追悼平和祈念館に行きました。大きなパネルに、被爆した人たちの顔と名前が次々と映し出されていて、一つの原爆で、こんなにたくさんの人達が死んでしまったんだなと思って、とても悲しくなりました。

私はこの広島派遣団に参加して、原爆のおそろしさや、戦争についてなど、たくさんのお話を学びました。広島ではどういうことが起こっていたのかを知り、たくさんの人たちに知ってもらいたいなと思いました。このようなことが二度と起こらないように、世界中が平和になることを願っています。



## 広島学習

東城陽中学校 1年 中村京楓

私は7月31日、8月1日に広島に行きました。広島に行つて学習した事は、原爆の事を知りました。広島は、原爆が落ちて、原爆の近くの人達は、やけどをおつたり、ガラスへんをあびたり、残くな状況を原爆ドームで見ました。

また、原爆が最初に落ちた場所は、島病院という病院の上空に落ちました。被爆後の街で、原爆をあびた人の半分は、元安川、本川に飛びこみ、ほとんどの人がそこで死にました。小さな子どもは、母、父をなくし、自力で生きていくしなくなり、建物の下じきになつて死んだ人も多く、爆発は大きな被害をあたえました。

私は、広島平和記念資料館で、当時、原爆をうけた人の話を聞きました。その人の話では、とつぜん光がぱつと光り、いっしゅんで建物がこわれ、人が建物の下じきになつていて、そのあと、ようやく明るくなり、人のうめき声がきこえたそうです。そして、「助けて〜」と声をあげていたと、被爆後の状況などを話してくれました。私はその話を聞いた時、なぜ戦争をするのだろう、戦争をする意味はあるのだろうか、そこに疑問をいだいていました。爆だんを落とせば、多くの人が死んでしまう。戦争は、本当にこわいものだと、今回の旅で思いました。

広島学習に行く前、禎子さんの話を資料で読みました。当時2歳で被爆した禎子さんは、その時は無傷でした。その後、禎子さんは、広島市立幟町小学校に入りました。ところが被爆から9年後、小学

6年生頃に、体がだるくなつたそうです。繰り返し検査を受け、1955年の2月に白血病と診断されたそうです。そして、広島赤十字病院に入院しました。しかし、手足や首に青むらさきの斑点がでたそうです。禎子さんは病室で折り鶴を折っていたそうです。しかし病気には勝てず、同年10月25日に12歳で亡くなりました。私は、それを読んだ時、悲しくなりました。

このように、原爆は、人々にずっと悪い影響をあたえてしまう。私たちは戦争のない平和な国になるようにがんばります。そして私達も原爆のことをずっとどうけついでいこうと思いました。

## 核廃止に向けて

南陽高等学校附属中学校 1年 近藤 勇斗

今回、私が小中学生広島派遣団に参加した理由は、原爆の被害状況や、実際被爆した語り部の話を聞けると聞き、興味を持ち参加しました。

一日目に平和記念資料館に行きました。そこで書いてある話は俄かに信じられないことばかりでした。三〇〇〇度から約四〇〇〇度の熱線に焼かれてしまい、語り部の話によれば、人が黒こげだったそうです。私は、この話を聞いてすぐには、状況が想像もつきませんでした。原爆が落とされて出た死者は約十四万人。これは、東日本大震災の約七倍、当時の広島の人口は三十五万人なので、人口の五分の二が亡くなってしまったということになります。あまりにも

非現実的な数値なので頭がまわらなくなってしまいました。その状態で一日目は終わりました。

二日目には、原爆ドームと追悼平和祈念館に行きました。原爆ドームに行く際、元の原爆ドームの姿をあらかじめ調べました。出た画像には煉瓦作りの頑丈そうな建物が出てきました。ただ実際に見たものは、鉄筋むき出しの、大部分がなくなってしまった壊れかけの建物でした。原爆ドームを見た時に平和の尊さと、戦争の愚かさを知ることができました。その後行った追悼平和祈念館で被爆して亡くなられてしまった人の顔が次々映し出されていました。中にはお爺さん位の年齢の人から、赤子位の年齢の人まで映されていました。映し出されている人を見て背筋が凍ったように感じました。広島にいた人が、死んだという表現というより、消え去った感じで、後の話は耳に入って来ませんでした。

帰ってきてすぐに、原爆が減ってきているのを知り、気になったので調べてみました。すると、核兵器を解体し再利用できるものは再利用するらしいです。しかし、残ったものは、再処理をほどこしても、約八〇〇〇年はかかるそうです。処理をするのにも時間がかかるのに、作り続ける国があります。世界平和のためにも、手間も時間も費用もかかり、破壊をもたらす原爆を作ったり、使うことはいけないと感じました。

## 日常を壊されたあの日

城陽中学校 2年 梅 沢 笙 史

たった一発の原子爆弾にて、街は火の海になり、沢山の人が死に、悲しみと絶望へと変わった広島市。あの日の人達は普通に生活をしていた罪のない人達だったのに、アメリカの無差別爆弾により多くの命がその場で消えてしまいました。教科書を見て、勉強はしていましたが、今回の広島派遣団で改めて原子爆弾の恐ろしさを知りました。

1日目の資料館で、残された写真や音声から知った事に、僕は大きなショックを受けました。写真には自分の知っている物や、知らなかった物、当日初めて聞いた物がありました。あの日、そこで何が起こったのかを、僕達に伝えてくれているのだと分かりました。8月6日の原子爆弾で亡くなられた方は14万人。それだけ多くの罪のない命が一瞬にして消えてしまった恐ろしい事実です。そして、原子爆弾のせいで沢山の人が大怪我をしました。自分の家族を病院に連れて行きたくても行けない人々、川には数え切れない人々の遺体。そして、当時の遺品等は、どれだけ凄惨な爆発であったかを主張しているように見えました。戦争の影響で沢山の罪のない人達を巻き込まないでほしいと、僕は心から思いました。

被爆された内藤慎吾さんの話によると、原爆の爆風と熱風は半径約2キロ〜3キロメートルになり、慎吾さんは運良く防空壕の中に居た事で無傷でした。しかし、廊下で庭を見ていたお父さんは爆風と熱線で身体中の皮膚が焼けただけでしたと話されています。

た。爆心地より2キロ近く離れていたにも関わらずです。

お母さんは慎吾さんの弟と妹が家屋の下敷きになっていたので必死に救い出したけれど、弟と妹は間もなく亡くなってしまったそうです。お父さんも数日後の朝に亡くなってしまいました。慎吾さんには2人の兄が居ましたが2人も原爆の犠牲になり亡くなってしまい、家族はお母さんと慎吾さんだけとなってしまいました。お母さんは慎吾さんを育てる為に必死に働きましたが、原爆による体内汚染もあり亡くなってしまいました。幼くして家族を失ってしまった慎吾さんは勇気を出してこの体験を後世に伝えていく事を決めたと話していました。

バスの中では、佐々木禎子さんが何故千羽鶴を折っていたのかを教えてくださいました。それは千羽の鶴を折ると願いが叶うと聞き、病気が治る事を願って折り続けたそうです。しかし、その願いも叶わぬまま、12歳で亡くなってしまいました。僕よりも2歳も若くして亡くなったと聞いた時はショックでした。僕達は今、平和な世界で生きていきます。二度と戦争や原子爆弾が使われる事のない世界にしていきたいと思います。

今回の広島派遣団では原子爆弾の恐ろしさが良く分かりました。この2日間の貴重な体験をありがとうございます。



## 戦争のおむごさを考えた二日間

南城陽中学校 2年 梅川 史

この夏、私は広島に行きました。一日目に原爆資料館を見学し、二日目に平和記念公園を訪れ、更に被爆者の方のお話を聞きました。今まで学校やSNSで原爆や戦争について学んできましたが、実際に行つて自分の目で見たり耳で聞いたりしたことで、教科書だけでは分からなかったことを沢山感じることができました。

最初に行つた原爆資料館では、本当に沢山の展示がありました。焼けて黒くなった服やこわれた弁当箱、ガラス瓶など、実際に被爆した人が持っていたものが並んでいました。それを見て「これはただの物じゃなくて、持ち主がいたんだ」と思った時、凄く胸が苦しくなりました。特に、小学生や中学生の子が学校に行く途中で被爆して亡くなった話はとても辛くて、自分と同じくらいの年でこんな事があったかと思うと、涙が出そうになりました。原爆は本当に多くの人の人生を一瞬で奪ったんだと強く感じました。

二日目に行つた平和記念公園では、原爆ドームが一番心に残りました。写真や映像では見た事がありました、実際に目の前にすると、大きさや迫力が全くの別物でした。半分壊れているのに、今も残っている姿を見て、あの日のことをずっと伝え続けているように思いました。公園の中にある慰霊碑や千羽鶴を見ながら、多くの人が「平和を願う気持ち」でここに来ているんだと思うと、自分もその一人としてしっかり考えなければいけないと感じました。

そのあとに、被爆者の方のお話を聞きました。お話をして下さつ

た方は、当時まだ子供だったそうです。突然、原爆が落ちて、町が一瞬でなくなり、家族や友達を失ったと話しておられました。落ち着いた声で話しておられたけれど、一つ一つの言葉がとても重くて、聞いているだけで胸がいっぱいになりました。「生き残った自分は、亡くなった人の分まで生きて、伝えなければいけない」と仰つていたことがとても心に残りました。そして、「聞いた事を友人や家族に伝えて欲しい」と言われた時、自分もその思いを受け取らなければいけないと思いました。

この二日間を通して、平和の大切さを改めて感じました。私たちが学校に行つたり、友達と遊んだりできるのは、平和だからこそです。もしも戦争が起きれば、その当たり前は簡単にこわれてしまいます。

私はこれから、この体験を忘れずになりたいと思います。そして「戦争を二度とくり返さない」という気持ちを持ち続け、自分なりに伝えていける人になりたいです。



**編集・発行** 城陽市 企画管理部 秘書広報課

〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16番地、17番地

電 話 0 7 7 4 - 5 6 - 4 0 5 0

F A X 0 7 7 4 - 5 2 - 1 1 7 5

U R L <https://www.city.joyo.kyoto.jp/>

E-mail [heiwa@city.joyo.lg.jp](mailto:heiwa@city.joyo.lg.jp)

